

# 【令和4年度 多摩区 研究経過報告】

## 中間報告

### 1. 研究主題

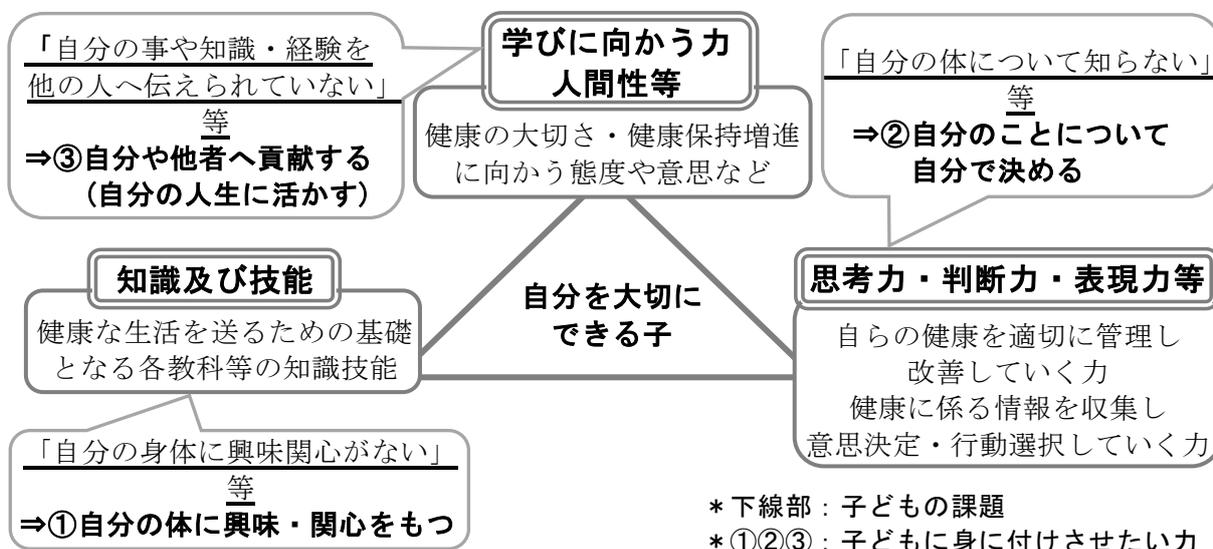
### 自分を大切にできる子の育成 ～「パワーアップシート」を活用した保健室経営～

### 2. 主題設定の理由とねらい

多摩区養護研究会では、子どもの実態を探るなかで、「自分の体に興味関心がない」「自分の体について知らない」「自分の状態を説明できない」「自分で意思決定できない」「知識・経験を他の人に伝えられない」という共通の健康課題が見えてきた。

平成29年改訂の学習指導要領で『心身の健康の保持増進に関する指導の資質能力の育成』において資質・能力の三つの柱『健康な生活をおくるための基礎となる各教科等の知識・技能(知識及び技能)』『自らの健康を適切に管理し、改善していく力(思考力、判断力、表現力等)』『健康の大切さ、健康の保持増進に向かう情意や態度等(学びに向かう力、人間性等)』が示された。多摩区の子どもの様々な健康課題を解決するために、資質・能力の三つの柱に沿った取組を行うことで共通の課題を解決に導き「自分を大切にできる子」の育成につながるのではないかと考えた。多摩区養護研究会の考える「自分を大切にできる子」とは、自己肯定感が高いだけでなく、ヘルスリテラシーを持ち合わせることによって、生涯を通して健康な生活を送るために自ら必要な情報を収集し、選定、活用していける子とした。

そこで、子どもの健康課題に対して、資質・能力の三つの柱に沿った取り組みをバランスよく計画・実践するために、共通で使用できる「パワーアップシート」を作成・活用し保健室経営を行い、自分を大切にできる子の育成に向けて研究を推進した。



図：「自分を大切にできる子」の育成を目指す資質・能力の三つの柱イメージ

### 3. 研究経過

<令和元年度> 学習指導要領に沿った指導の検討

ブレインストーミングを活用して、各校の子どもの実態把握と多摩区の子どもの課題を明確化した。課題に対する取組を考えるために、資質・能力の三つの柱に分けて記入できるワークシートを作成・活用した。活用後には、全体で情報整理と意見交換を行った。

<令和2年度> 学習指導要領の資質・能力の三つの柱に沿った実践

子どもの課題をさらに分析し、より具体的な実態を把握するために、子どもの課題テーマごとに分かれて活動を進めた。その中で、めざす子ども像に近づけるために、子どもに身に付けさせたい力を資質・能力の三つの柱に沿って設定した。「①知識及び技能：自分の体に興味・関心を持つことができる」「②思考力、判断力、表現力等：自分のことについて自分で決める」「③学びに向かう力、人間性等：自分や他者へ貢献することができる」(図)である。課題に対してより具体的な手立てを検討し、実践を進めた。

<令和3年度> 「実践の記録」を活用した実践と共有

子どもの課題に対して資質・能力の三つの柱に沿った保健室経営を行うために「実践の記録」を作成・活用して実践した。「実践の記録」には、子どもの実態やねらい、資質・能力の三つの柱の各項目に対する目標、計画、実践報告が記入でき、一目で全体を確認できる形式にした。

各校で「実践の記録」を活用した実践を進め、グループごとに報告・相談し、資質・能力の三つの柱に沿った計画・実践の内容を検討した。実践を情報共有することで、積極的にお互いの学校の実践を取り入れて進めることができた。実践終了後に、各校の実践発表・意見交換と、「実践の記録」活用後のアンケートを行った。

<令和4年度> 主題変更、まとめに向けた取組

令和4年度より「実践の記録」を「パワーアップシート」と名称を変更した。また、これまで『子どもたちの安全・安心のための保健室経営～自分を大切にできる子どもに育てる～』研究主題のもと、研究を進めていたが、自分を大切にできる子の育成に向けて、パワーアップシートを活用した資質・能力の三つの柱に沿った実践を行っているため、研究主題を『自分を大切にできる子の育成～「パワーアップシート」を活用した保健室経営～』に変更した。

「パワーアップシート」を活用して見えてきた課題を活かして、各校で実践を引き続き進めると同時に、来年度の発表に向けて研究冊子をまとめ始めた。

昨年度、「実践内容が『①知識及び技能』『②思考力・判断力・表現力等』『③学びに向かう力・人間性等』のどの項目に入るのか悩むことがある」という課題が見えてきたため、野口指導主事より資質・能力の三つの柱に沿った実践について、ご指導をいただいた。

### 4. 今後の課題

今後は、資質・能力の三つの柱をバランスよく実践したことで見えてきた相互作用や、ねらいに近づくことができているか研究の成果と課題をまとめていきたい。また、来年度の発表に向けて、パワーアップシートを他地区の方も活用したいと思えるような発表方法を検討したい。